

研究代表者 所属・職：スポーツ科学部・講師

氏 名：水野 和代

研究課題名：日本の大学における知的障害者の受入れ体制構築に向けた研究

研究の概要

本研究の目的は、今後の日本の大学における知的障害者の受入れ体制の構築に向けて、必要な制度的枠組み・環境整備を明らかにすることである。

そのために、本研究の助成期間である 2022 年度は、日本における知的障害者の学校卒業後の学びの場の現状に関する資料・文献の分析をおこなうとともに、先駆的な取組みを展開している島根大学の「知的に障がいのある人のオープンカレッジ in 松江」（以下、オープンカレッジ in 松江）（2022 年 11 月 5 日・6 日、2023 年 3 月 4 日・5 日）において、担当講師への質問紙調査、授業見学・観察を実施した。また、米国の大学における知的障害者の受入れに関する一連の制度・政策・法律を中心とした報告書などの資料・文献の収集・分析・考察をおこなった。

なお、当初、予定していた知的障害者の学校卒業後の学びの場である静岡大学の公開講座、東京学芸大学のオープンカレッジ（オープンカレッジ東京）における調査については、コロナ禍におけるオンデマンド動画による実施や日程変更等があったため、オンデマンド動画の内容、資料・文献の分析・考察をおこなった。

達成状況・成果内容

本研究では、2022 年 11 月 5 日・6 日、2023 年 3 月 4 日・5 日に、日本における知的障害者の学校卒業後の学びの場として先駆的な取組みを展開している島根大学における「オープンカレッジ in 松江」において、担当講師への質問紙調査、授業見学・観察を実施した。

「オープンカレッジ in 松江」は、2007 年に開始され、今年度 7 期生が卒業をしている。受講生は、18 歳以上の知的障害者であり、2 年を 1 期として、秋と春に各 2 日間ずつ開講されており、今年度は人文・社会学系の科目、自然科学系の科目等、多岐にわたる講義科目が実施された。

プログラムは、「オープンカレッジ in 松江実行委員会」の学生スタッフが中心となって企画しており、担当講師の選定や依頼も学生がおこなっている。知的障害のある受講生には、一人ひとりにボランティアである学生サポーターがつき、必要な時に必要な支援を提供するとともに、ともに学ぶという形式をとっている。また、この実行委員会には、松江市手をつなぐ育成会と松江市社会福祉協議会の方が社会人スタッフとして参画している。さらに、担当講師は島根大学の教員だけではなく、地域施設の職員など、地域を巻き込んだ取り組みであることが特徴の一つである。

質問紙調査は、オープンカレッジの目的や意義に関する質問項目を主としており、あらかじめ、目的と倫理的配慮を担当講師に伝達し、自由意志に基づく適切な同意を得た上でおこなった。担当講師 5 名（11 月調査時に 2 名、3 月調査時に 3 名）に配布し、5 名からの回答を得ている。

その結果、オープンカレッジは、講師にとって有意義な時間であること、講師が知的障害者を理解する場になっていることが明らかとなった。また、講師から見て、学生サポーターが受講生を支援するとともに、受講生とともに楽しみながら学んでいることの利点も指摘された。

課題としては、知的障害者が講義内容をどの程度理解できたのかを把握することの難しさ、講義内容を分かりやすくするための工夫の必要性等が指摘された。

授業見学・観察からは、講師が、講義に視覚的な支援を多用していること、座学だけではなく演習を取り入れていることが、いずれの講義にも該当していた。また、講師の講義に対して、受講生である知的障害者の真摯に取り組む姿勢が顕著であった。さらに、受講生を支援する学生サポーターの有効性が示された。

本研究により、大学がオープンカレッジという枠組みを通して、知的障害者の教育を受ける権利を保障する場になり得ることが示唆された。

引き続き、知的障害者が学ぶ場として、大学が果たす役割と展望について研究を続けていきたい。

調査研究の成果については、2023年8月に日本特殊教育学会の自主シンポジウム、2023年10月に日本特別ニーズ教育学会にて自由研究発表を実施する予定である。

その他、日本における知的障害者の学校卒業後の学びの場の現状および、米国の大学における知的障害者の受入れに関する資料・文献の分析結果は、以下の通り、発表している。

【学会発表】

- ・水野和代（2022）「高等特別支援学校における教育の意義と課題—学校卒業後の継続的な学びの可能性—」日本特殊教育学会第60回大会
- ・水野和代（2022）「COVID-19が米国の大学で学ぶ知的障害者に与えた影響—『職場に基礎をおく学習（WBL）に焦点をあてて—』日本特別ニーズ教育学会第28回研究大会

【論文等】

- ・水野和代（2023）「障害者生涯学習支援政策の検証(1)—2016・2017年度—（論議まとめ）」『全国障がい者生涯学習支援研究』第7号
- ・水野和代（2023）「我が国における障害者生涯学習政策5年間の検証—『全国障がい者生涯学習支援研究会』第6回全国研究集会における対話と学び—」『月刊社会教育』2023年5月号、旬報社